



天明太平記

貳

~ 13
3315
2



牛本
池清

天明五年日記卷之二

目錄

- 一 考なる娘の河を渡る事
- 一 考なる池田の事
- 一 考なる寺の事
- 一 考なる池田の事
- 一 考なる池田の事
- 一 考なる池田の事

繙 譯 書

繪 本

曲阜馬琴之作
其外諸先生作

倭 軍 書

書 本

車書
敵討
諸家騷動

隨 筆 物

滑稽物

御捌物

國々名所
近世戦争書類

右々外數品は座に寫し置候に程奉存也

書物債主所

誠光堂 池田屋清吉

東京牛込細所

門 八 13
3315
2

一
定改古の早しゆ木の車
夫の早しゆ木の車

牛
池
清



天保五年記卷之三

子長乃娘の河古の車

天保の五郎の車

玄祖の御代は娘の河古の車
利根河、自は親の御代は
豊後族の御代は二日下自の御代は
高知の御代は先代御代は河古の車
高知の御代は先代御代は河古の車

大正十一年八月九日
本大學出版部

又かの所を成 ねたりの 後河原院
とてまを成言 せむるを 人々を
近侍の 来たり 去るが 田舎の 三月 夏
あまの 藤原 氏もあ 一休の 年六
海流の 人々を 習せ 取つて 少の 澤の
事一あまの せむるを 何年 世話の
めも一 少の せむるを 家来の 三月 夏
人々を 習つ 時分の せむるを 少の 澤の

手紙の 如く せむるを 少の 澤の
一休の 海流の 人々を 習せ 取つて 少の 澤の
夏一あまの せむるを 何年 世話の
めも一 少の せむるを 家来の 三月 夏
人々を 習つ 時分の せむるを 少の 澤の
大津の 子実 海流の 人々を 習せ 取つて 少の 澤の

の考は他も異ならずなる海軍軍成
 者も雄倉向年一歳を起さるる中
 ちりさぶた川に於て赤雲大軍と初見
 立相立を而し親友たりて軍一を以て大
 佐の隙部田代村に居れり者之に
 ともて後世の事ありて實事成者あり
 ともて一に何がた人の意に在るや
 仍るに始るるに所りて後ありて人の

考を以て後世の事ありて實事成者あり
 ともて一に何がた人の意に在るや
 仍るに始るるに所りて後ありて人の
 考を以て後世の事ありて實事成者あり
 ともて一に何がた人の意に在るや
 仍るに始るるに所りて後ありて人の
 考を以て後世の事ありて實事成者あり
 ともて一に何がた人の意に在るや
 仍るに始るるに所りて後ありて人の

名を流回所なる高嶺を名高なる
女を其の才智を人々を神下神
下し其の才智を人々を神下神
と連し其の才智を人々を神下神
立神の才智を人々を神下神
は其の才智を人々を神下神
子を其の才智を人々を神下神
は其の才智を人々を神下神

同書ありありと興元之書
千俵を女流の才智を人々を神下神
は其の才智を人々を神下神
女流の才智を人々を神下神
は其の才智を人々を神下神
は其の才智を人々を神下神
は其の才智を人々を神下神
は其の才智を人々を神下神

かゝる事の数多きより返らざる所加

増え綿り糸のなる所を成よる

田原寺有る事師七面形事

并田原寺有る事

此の事なり今とある所の為なり

〜〜〜成りてありてありてありて

媛家孤獨ありてありてありてあり

術の人の道徳なりなりなりなり

守たの事師たり〜〜〜事なり

相言此事の〜〜〜事なり

思の柄作りありありありあり

話〜〜〜事なりありありあり

物なり〜〜〜事なりありあり

と春なり〜〜〜事なりあり

種あり〜〜〜事なりありあり

例も〜〜〜事なりありあり

七面大明神、祈禳を至、何年か一人
又秀の禱の一を授けしと、丹波に地所
り、子孫を女房に河、福あり、懐妊し
らば、お産の次第、神を祀り、海行公念
ふと、ある日、身を付り、海に身を保ち、
五、七月、ま、白、女房、を、神、使、男、子、お、世、に、し、り
夫、婦、情、中、限、り、あ、一、そ、を、毎、日、お、夜
を、想、へ、る、程、に、後、侍、後、妻、に、相、成、高、直

さ、馬、氏、海、を、決、り、て、女、子、を、お、り、か、し、り、と、量、
程、を、お、り、也、一、又、母、に、お、り、を、懐、け、し、り、育、
り、か、お、り、お、り、成、長、し、り、の、程、に、志、量、大、に、
種、に、八、歳、に、お、り、書、を、お、り、せ、り、お、り、一、ま、お、り、
万、を、信、の、事、に、お、り、何、れ、お、り、の、事、に、お、り、
人、を、信、を、お、り、し、り、お、り、書、を、お、り、せ、り、
御、入、御、お、り、の、事、を、お、り、せ、り、も、お、り、
御、入、御、お、り、の、事、を、お、り、せ、り、
御、入、御、お、り、の、事、を、お、り、せ、り、

可々復海神の威徳を今社界の
より

田代龍也也有るべき事

又龍也の福を造らる事

海神田代有るべき事

御社御入城初年也也也也也也

あくお初初十年の早もを流りて

龍也也也の十三年也也也也也也

蔵智也也也也也也也也也也也也
事也也也也也也也也也也也也
中も富也也也也也也也也也也也
了も自也也也也也也也也也也也
之也也也也也也也也也也也也
也也也也也也也也也也也也也也
也也也也也也也也也也也也也也
也也也也也也也也也也也也也也
多也也也也也也也也也也也也也

名を形なきやと号する侍は後の司馬相
如く世年の時其の合はる所の國を
おし世と大夫は馬の卒を言ふんが
お女門と号するは神の一急流を言ふ
我も河卒と号するは諸侯の衆也
久し者をも思ひしるは諸侯と人との
まゝは修神の礼を言ふ人も思ひし
よと号するは合利と号するは末代母を

てそのを言ふるは神と人との
いそぎの傳十九年三月十日
百かたの事言ふは小作の
る儀りも言ふるは言ふるは
所りありては一なる龍物
かつて諸侯諸神割るは
祈願を成るは言ふるは
言ふるは言ふるは言ふるは

つし今めしと御衆中し列の連り奥加の
祓忍つしきあぐし元来四原村しち氏し
中あまふあゆし女系系系連もあし神海下
ハ知少か女智入る福し幸あまふ女ま
程し三州あせまふし神時し祓忍ち氏より
勢りしし人し御衆指さるしし心若れん
まふ神し國し古し植妻天皇し後醍醐平し
将門下総國相馬ゆ内裏を建自し平親王

と稀し關八路を押所し四海威を震ふ
天の世覆るし仕のしし時下野の國ハ隣
國あまふ将門し幕下勢多き今し是も古
取し成し幸しあまふし玉郷を村ゆ名水
あまふ幸しとまふししから福を求るし系圖
とあまふし信目しと成れ四原しあまふし族
しあまふし極し白足あまふし先祖しの者養
あまふし我身古の修しとまふしとまふし決り海

お世の事一まあ一人の備置方を情
な来たる事をさしあまつしやう
流るる涙を押し流るる涙の
定紋七早の由事

お世の事一まあ一人の備置方を情

お世の事一まあ一人の備置方を情
流るる涙を押し流るる涙の
定紋七早の由事

お世の事一まあ一人の備置方を情
流るる涙を押し流るる涙の
定紋七早の由事

母に兄子決断一契竊成一時何年ある
富まるせん子を辱夫ら三航せしりま
信沖の法を修むべき休あく廿何何大
ありりお侍らん不勤圓仍の一刀を棄中
あり有し今をのそ何信沖の法を修りりか
思もも決断計ふり運来り信を修成
海が母を辱らふありし女あるも思
あり女事をも三三と万歳なる利刀を棄

を修一丁を修ありし一と一と利定致
せしあり是古しを三三と万歳なる利刀を棄
三月あせむる事し思子を知り奮を修
万歳候約をまじしとまじしと有し事立し
中一海一と十歳一幼くして其の年十三年
十月十三日其息の族めを流りり河一初
慈傷大方ありし事知り北しりり知
まづそのありし事知り北しりり知

念のりぞ 吊ひりり



天明三年一記卷之二



<p>近世小説 鳴田二郎實錄 五十二</p>	<p>開明小説 三田五人切實記 冊五十</p>	<p>相州奇談 真土村實錄 全</p>	<p>近代 紀文實錄 冊二十</p>
<p>堀田先生編 造化色論 全</p>	<p>春色先生編 世界大機 全</p>	<p>松村春輔著 三府膝栗毛 編三 大尾</p>	<p>春風日記 全</p>
<p>於百實傳 怪妖物語 百十冊 大尾</p>	<p>法親のくまり 處女香</p>	<p>誠光堂述</p>	<p>京橋跡左門町 牛込細工町 同</p> <p>文永堂 大嶋屋傳左工門 誠光堂 池田屋利三郎 盛弘堂 池田屋清 吉</p>

東 京 書 林

